

来訪者管理戦略に係る指標等の設定

1 世界遺産委員会決議への対応

「望ましい富士登山の在り方」を実現するため、2018年（平成30年）7月までに、登山者数を含めた複数の指標と指標ごとの望ましい水準を設定するとともに、上方の登山道に着目しつつ、山麓地域を包含した対策を実施する。

2 今後の対応

(1) 検討主体、検討項目及び方向性

◎検討主体

富士山世界文化遺産協議会作業部会で詳細を検討

◎検討項目及び方向性

- ・ 登山者数を含めた指標の項目・望ましい水準
→調査の継続・データを蓄積し、地元関係者と協議を実施
- ・ 望ましい水準を達成するための対策
→上方の登山道と山麓地域への対策を検討
- ・ 指標のモニタリング方法
→規模・経済性などを考慮し、継続して実施可能な方法を検討



調査分析結果を踏まえつつ、学術委員会の助言を得ながら、地元関係者との合意形成に向けた協議を実施する。

(2) スケジュール

	2016年 (H28年)	2017年 (H29年)	2018年 (H30年)	2019年 (H31年)
調査・研究	動態調査・意識調査等の結果分析			
指標の項目・望ましい水準	検討	検証	設定・確立 (7月まで)	実施
対策				
モニタリング方法				

(3) 今年度の予定

2～3月頃に、登山者数を含めた複数の指標及び望ましい水準等の素案を提示する。

<参考1>望ましい富士登山の在り方

- ① 17世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承
- ② 登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持
- ③ 登山の安全性・快適性の確保

<参考2>指標の例示（来訪者管理戦略から抜粋）

望ましい富士登山の在り方		指標	望ましい水準	
文化的伝統の継承	富士山が持つ神聖さ・美しさを実感できている	富士山に神聖性を感じた登山者の割合（登山者アンケート） など	富士宮口	
			御殿場口	
			須走口	
			吉田口	
展望景観の維持	山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和している	登山道沿いの景観が自然と調和していたと感じた登山者の割合（登山者アンケート） など	富士宮口	
			御殿場口	
			須走口	
			吉田口	
登山の安全性・快適性の確保	安全・快適に登山ができる	1日あたりの登山者数（八合目カウンター数字等） など	富士宮口	
			御殿場口	
			須走口	
			吉田口	